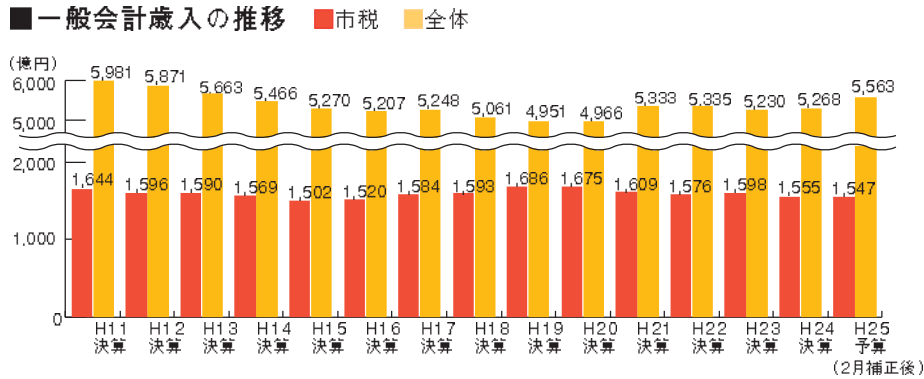




# 今後厳しくなることが予想される財政状況

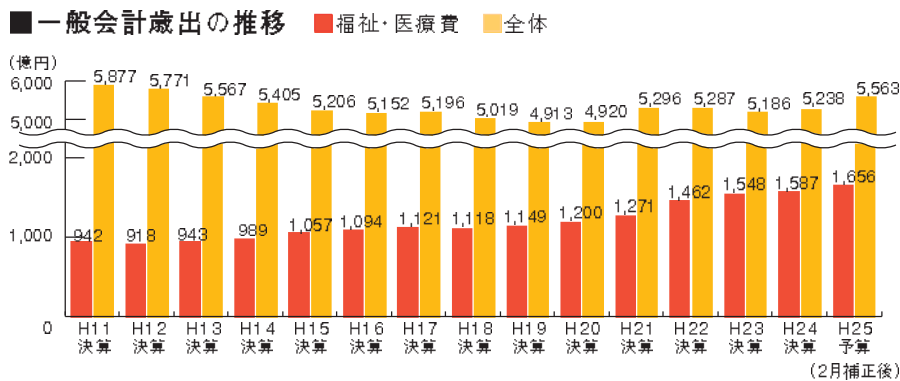
## 「市税」は平成19年度以降減少傾向

本市の一般会計歳入における「市税」は、平成19年度以降減少傾向が続いています。



## 「福祉・医療費」は年々増加

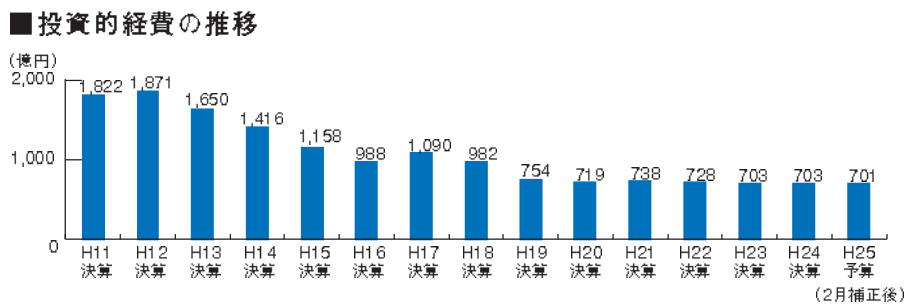
少子高齢化の進行などにより「福祉・医療費」は年々増加しています。



○福祉・医療費／福祉の法令等に基づいて実施する医療費援助、各種手当支給、生活保護費、福祉施設運営費などに支出される経費に、国民健康保険・介護保険・後期高齢者医療の各特別会計への繰出金を加えたもの。

## 「投資的経費」は近年横ばい状態

「投資的経費」は平成12年度をピークに6割以上減少し、近年横ばい状態が続いています。



○投資的経費／道路、橋りょうなどの社会資本の整備に要するもので、その効果が資産として将来に残るものに支出される経費。  
公共施設の新設・建替え・大規模改修・修繕等にかかる経費が含まれる。

# 近年の財政水準では、すべての公共施設を 建替えることは困難

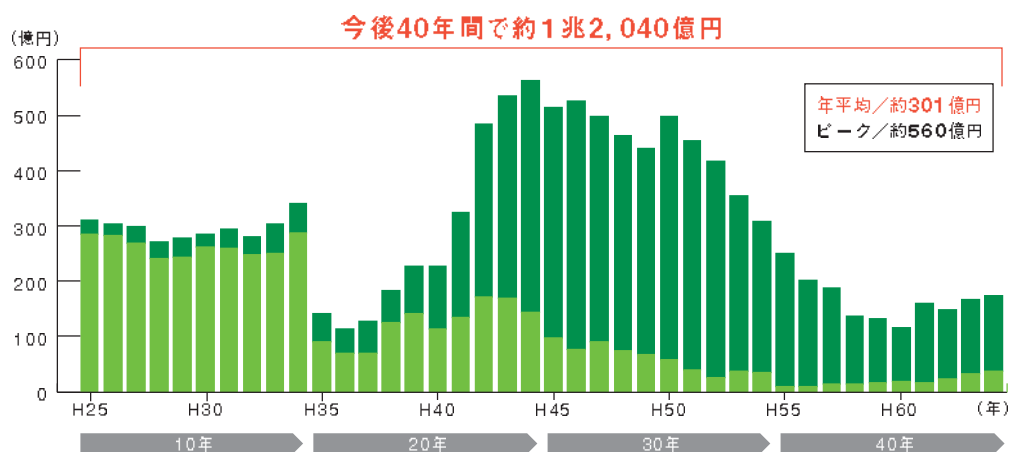
## 大規模改修や建替えには多額の費用が必要

本市の公共施設は、建築後30年以上を経過した施設が半数を超えています。

公共施設の耐用年数はおおむね60年といわれており、施設の老朽化度合いに応じて、近い将来、大規模改修や建替えが必要になってきます。

現在保有しているすべての公共施設について、大規模改修や建替えを実施した場合、いくら必要になるかを総務省が推奨するソフト(総務省モデル)で試算したところ、今後40年間で約1兆2,040億円、1年平均で約301億円が必要という結果になりました。

■ 総務省モデルによる将来必要な費用の試算結果 出典：北九州市総務企画局(平成25年3月)  
 ■ 大規模改修 ■ 建替え



## 近年の財政水準では大幅に不足

公共施設の大規模改修や建替えに支出した金額は、直近3か年の平均で約177億円となっています。

この水準が今後も確保されると仮定しても、将来的な必要額である年平均約301億円に比べると、大幅に不足することが明らかです。

